

第2学年C組 国語科学習指導案

授業者 小松田 ひかり
研究協力者 阿部 昇, 成田 雅樹
教材分析協力者 大橋 純一

1 単元名 せつ明のしかたに気をつけて読もう ～しかけカードの作り方～

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

生活科の学習で、簡単に作ることでできる折り紙のおもちゃを作って楽しく遊んだ。隣の学級の友達にも作ってほしいと、作り方の説明書を書いて渡したが、それを読んだ隣の学級の友達は、作り方が分からず正しく作ることができなかった。なぜ、自分が伝えたものがうまく伝わらなかったのか、疑問を感じ始めた子どもたちである。

これまで、分かりやすく説明するという視点で説明文を読む経験をしている。1年生で学習した説明文「どうぶつの赤ちゃん」では、対応する叙述に着目して読み、対比的説明をすることによって違いが明確になるという効果に気付くことができた。2年生では、「たんぼぼのちえ」の学習で、時を表す言葉によって時間的な順序がとらえやすくなる効果を学習した。書き方の説明を考えながら読む経験はしているが、読み手として、説明の仕方の工夫があることで、「分かりやすい」「助かる」等とよさを実感するところまでは至っていない。

(2) 単元について

教材文「しかけカードの作り方」は、僅か4ページの中に、様々な説明の工夫がなされている。中でも主な工夫とそのよさは、次の5点であると考えられる。①見出しや箇条書きによって、一目でとらえることができること。②写真が叙述の説明を補う役割をしていること。また、完成の見通しをもつことができること。③順序を表す言葉によって、作業手順がとらえやすいこと。④具体的数値によって、失敗を防ぐことができること。⑤注意点を示すことにより、失敗を事前に防ぐことができること。これらの説明の工夫は、何気なく読んでいると気に止めることもないと思われるが、意識的に見ることによって、自分が説明する側になったときにも取り入れることが可能な技法となる。

本教材のこうした特徴を踏まえ、本単元では、**筆者の書き方の工夫やよい点・不十分な点を考えながら読むという資質・能力を高めることを目指す。**

(3) 指導について

本単元ではぐくむ資質・能力を高めるために、**具体的数値、注意点、写真と対応する叙述等に着目し、その言葉があるときとないときを比べることを通して、分かりやすい説明の工夫とそのよさを考えるという「見方・考え方」を働かせる。**

本単元の前に、試しに説明書を書く時間を設定する。書いた説明書を他学級の友達に読んでもらい、読み手に伝わる説明が十分でないことを実感する機会を設けることで、必要感をもって教材文と向き合うことができるようにする。より相手に伝わる説明書を書いて教えたという子どもから出てきた課題意識をもとに、目的意識をもって教材文「しかけカードの作り方」から工夫を見付けられるよう学びの意欲を高めていきたい。

分かりやすい説明の工夫とその効果を考える時間には、曖昧な言葉で書かれた場合と比較したり、写真を使った説明と文だけで説明した場合とを比べたりすることで違いを明らかにしていく。「ないと困る」「あると助かる」という目でも読み始めた子どもたちに、さらに工夫はないかと投げかける。「こうすると～してしまいます。」という表現に触れた発言を取り上げて、もし工夫だとするならどんな効果があるか問う。着目した叙述がある場合とない場合という比較の目を使って思考する場となるはずである。置き換えて比べる、無い場合と比べるという、言葉との向き合い方のよさを実感し、次の学びに活かす子どもの姿へつなげたい。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

(1) 作り方を説明する語句の意味を理解し、順序を表す言葉に着目して作業手順をとらえながら読む。 (C-3・21)

(2) 写真、具体的数値、注意点を示す叙述等に着目し、分かりやすく説明するための工夫について、その効果を考えながら読むことができる。 (C-33)

(3) 作り方を説明する文章に関心をもち、分かりやすく説明するための工夫に興味をもって読もうとしている。 (C-33・65)

4 単元の構想（総時数7時間）※「見方・考え方」を働かせた学習活動

じゅんじょに気をつけて読もう ～たんぼぼの ちえ～
 分かりやすくせつめいしよう ～おもちゃの作り方～（第1時のみ）

◎本単元で育む主な資質・能力
 筆者の書き方の工夫やよい点・不十分な点を考えながら読む。（C-33）

時間	学習活動	教師の主な支援	評価（本校の資質・能力との関連）
1	(1) 教材文を読み、感想を交流してから、学習課題と学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> 目的意識をもって教材文と向き合うことができるように、本単元の前に自分が書いた説明書と教材文を見比べる時間を設ける。また、もう一度、相手に伝わる説明書を書いて教えたい等の子どもから出てきた課題意識をもとに、次の単元で説明書を書くことを確認することで、目的意識をもって工夫を見付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 作り方を説明する文章を踏まえて、これから学習したいことを書いている。〈C-65〉
学習課題 「しかけカードの作り方」のわかりやすいせつ明のくふうを見つけよう。			
2	(2) 教材文を読みながら、しかけカードを作る。	<ul style="list-style-type: none"> 教材文を読みながらしかけカードを作る際に生まれた失敗を次時の学習に生かすことができるように、作ったカードを見合って、気付いたことを出し合う時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文を読みながらしかけカードを作り、気付いたことを話している。〈C-65〉
3	(3) 説明に使われている言葉の意味を確認しながら、〈作り方〉を読む。	<ul style="list-style-type: none"> 各段落に書かれている内容を正しく読み取ることができるように、前時に作ったしかけカードの失敗例を提示し、読み落としした叙述はどこか問いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明に使われている言葉の意味を理解し、作り方を読み取っている。〈C-21〉
4	(4) 前書きと、〈ざいりょうとどうぐ〉の工夫とその効果を考える。 〈予想される子どもの反応〉 ・ 写真があると完成したイメージがもてる。	<ul style="list-style-type: none"> 写真があることの効果や箇条書きの効果について考えることができるように、写真がない場合や箇条書きでない叙述と比較して考える時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真が提示されている工夫や箇条書きの工夫とそのよさを考えている。〈C-33〉
5・6本時	(5) 〈作り方〉〈つかい方〉の工夫とその効果を考える。 〈予想される子どもの反応〉 ・ 「まず」「つぎに」等がある方が、順序が分かりやすい。 ・ 注意点がないと、失敗してしまう。あると失敗を防ぐことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 順序を表す言葉を用いた書き方の効果に気付くことができるように、「そして」だけでつないだ文章と比較したときの違いを話し合う場を設定する。 注意点を説明する工夫の効果を考えることができるように、「注意点が書かれていることでどんなよさがあるか」と問いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 順序を表す言葉がある工夫や、写真が文章と対応している工夫とそのよさを考えている。〈C-3・21・33〉 具体的数値を示す工夫や、注意点を示す工夫とそのよさを考えている。〈C-33〉
7	(6) 本単元で見付けた説明の工夫をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 本単元で見付けた工夫とその効果を再認識することができるように、教材文と自分が書いた説明書を読み比べる活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい説明の工夫やその効果に触れながら、本単元についてふり返りを書いている。〈C-33〉

◎本単元の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」
 具体的数値、注意点、写真と対応する叙述等に着目し、その言葉があるときとないときを比べることを通して、分かりやすい説明の工夫とそのよさを考える。

分かりやすくせつめいしよう ～おもちゃの作り方～

5 本時の実際 (6 / 7)

(1) ねらい 具体的数値を示す叙述や注意点についての叙述に着目し、分かりやすく説明するための工夫について話し合うことを通して、その効果を考える。 (C-33)

(2) 展開

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
3分	<p>① 学習問題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明の工夫を見つけて今度は分かりやすく書きたいな。 順序を表す言葉や写真の工夫の他にどんな工夫があるのだろうか。 <p>学習問題 〈作り方〉には、どのようなせつ明のくふうがあるのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目的意識を高めて新しく工夫を見付ける活動に向かうことができるように、説明がうまく書けなかったことや、見つけた工夫を活用することを再確認する。
37分	<p>② 〈作り方〉の説明の工夫を出し合い、そのよさについて話し合う。</p> <p>【④段落】</p> <p>工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 工夫は「4センチメートル」「3センチメートルぐらい」かな。 長さが詳しく書かれているから工夫だと思う。 <p>よさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 数字で教えているから、切り込みを切りすぎたり、短すぎたりしない。 数字で教えると、失敗しない。 <p>【⑦段落】</p> <p>工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 「かざりが大きすぎると、はみ出してしまう。」「小さすぎる台が見えてしまいます。」が工夫だと思う。 注意を書いている工夫だ。 <p>よさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意点が書かれていなかったらみ出したり、台が見えたりしてしまうけれど、注意点が書いてあると、気を付けながら作ることができる。 注意点が書いてあると、失敗しないで上手にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 長さが数値で書かれていることに着目できるように、切り込みの長さが長すぎるカードや短すぎるカードを必要に応じて見られる失敗例コーナーを用意する。 一人一人が工夫を探すことを経験し、それを活かして他の工夫を探すことができるように、段落を限定して工夫となる叙述を探す時間を設定する。 具体的数値が書かれていることによって、長すぎたり短すぎたりせず失敗しないのでできるというよさに気付かせたい。数字で書いてあることが工夫だと気付いた段階で、曖昧な言葉で書かれた場合と比較し、気付いたことを話し合う時間を設ける。 注意点が書かれていると失敗しないで作ることができるという効果について考えることができるように、「注意点が書かれていることでどんなよさがあるか」と問いかける。 注意点が無いと失敗をしてしまうことが実感を持った理解になるように、注意点が書かれていなかったらどうなるか考える時間を設け、失敗例のカードを提示する。 失敗例を示した注意点の書き方を説明書を書くときに生かすことができるように、「しまいます」という叙述に着目し、どんな場面で使う言葉か、どんな意味があるかを確かめる時間を設ける。 見つけた工夫とそのよさを、今後も生かせるように、短い言葉でまとめる時間を設定する。
5分	<p>③ 学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数字で教えると、失敗しないと分かったので、この工夫を使いたい。 注意点を書くと、失敗しないで作れるということが分かったので、説明書に書きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 見つけた工夫を生かそうとする意識がもてるように、これから説明書を書く際に使いたい工夫はどれか問いかける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>具体的数値や注意点を示す工夫に気づき、その工夫があることで失敗を防ぐことができるというよさについて考えて、書いたり話したりしている。 (C-33) (発言・ノート)</p> </div>